

## 異文化体験へ

### — ガイドブックには書かれていない中国発見へ—

細谷 和宏

あっという間に2か月が過ぎました。この間季節は夏から秋を飛び越えて一気に冬に突入です。朝晩の気温は太原ではすでに連日マイナスです。

私が中国に来ることを決断したのは、中国語の習得を通してさまざまな未知の異文化体験を経験したいと思い立ったからです。一生のうちに自分にしかできない何かを見つけたいと考えた決断でした。言うはやすくかっこいい決断だったのですが、まったく違う価値観のある国で果たしてやっていけるのか今でも不安でいっぱいです。先月のレポートで書かせていただきましたが、何事も体当たりで異文化を経験したいと言いました。そこで、異文化とはいったいなんだろうかと考えてみました。

自国で常識であったことがある国ではまったく通用しないこと、簡単に言ってしまうとこれが異文化ではないかと私は勝手に思うのです。例えば、こちらではバスに乗ろうと列に並んでいても、乗車口が開くと同時に横から人がどんどん力づくで割り込んできて乗り込み、列に並んで遠慮がちな人は最後には乗れなくなります。この国ではこれが常識、つまりバスに乗るときのルールです。小さな子供も若い女の人もみんなどンドン横からこんな乗り方をします。そして、誰も文句を言いません。タクシーは乗車拒否するのが当たり前、学食では若い女の子でも口に入れたものをテーブルに吐き出したりするのが当たり前、歩きながら買った食べ物の串などはそのまま路上に捨てるのが当たり前なのです。ちょっと思いつくままに書きましたが、これらの行為はこちらでは誰一人注意をする人はいませんし、日常でいつでも見られる行為です。つまり、こちらの常識なのです。

例えば麺類を食べるとしましょう。おいしそうに音を立てて食べるのは日本では常識です。日本でおそばを食べるとき、音を立てずに食べる人はあまりいないと思います。でも、もう一步踏み込んで考えてみると、日本でもレストランでスープを飲むときなどそばやうどんを食べるときのように音を立てるとひんしゅくをかいます。スープはみんな音を立てずに食べようとします。日本では麺類を食べるときだけは音を立てて食べるのが常識で、スープなどをすすって飲むのはダメということが今では常識となっているようです。しかし、この区別を外国人は理解するでしょうか。これが日本人の暗黙の了解であり、文化だと思ふのです。もし、もりそばを音を立てずに食べたとしたらまったくお

いしくないことを長い時間をかけて日本人は習得したのだと思うのです。これが文化だと思います。その土地、その土地に根差した独特の習慣、それが文化となっていくのだと思うのです。

私は異文化を体当たり体験することを目標にあげましたが、異文化体験はオーバーにいうと、まずわれわれ日本人がもっている常識をいったん捨てる覚悟が必要だと思います。こんな中国は見たくないといふと異国の常識に目をそむけてはいつまでたっても体当たり異文化は経験できないと思うからです。

パックになった旅行のツアーでは、ドアツードアで今日はここの世界遺産を観て、日本語ガイドのいる貸切バスに乗り、次の飯店で北京ダックを食べて日本人ばかりのホテルで寝る、これでは生の中国人の生活が見えてこないと思うのです。路上に散乱する食べかすや紙くずをよけながら歩く路地、仕切りのないトイレで用を足さなければならないなどパックツアーにはない体験をすることが必要だと思います。

インターネットは電源を入れれば即繋がって当たり前、栓をひねれば熱いお湯で毎日シャワーができて当たり前、これら日本人が常識だと思うことがある国では常識ではないのです。逆に言えば、熱いお湯が即出るシャワーを毎日浴びられればとても幸せだと感じられる国があるのです。山西大学校内では、よく髪の毛を濡らして小脇に石鹸と着替えを抱えて歩く女子大生を日中よく見かけます。冬になった今でもよく見かけます。寮には入浴設備がないため、歩いて何分もかかる有料公衆浴場へ通っているのです。でも、みんな幸せそうにおしゃべりして歩いています。

ここでちょっとしたことを紹介します。私は9月に大学本科生の前で少ししゃべらせてもらったことがありました。そのとき、彼女らにいくつかの質問をしました。

- 1 外国に行ったことがある人。
- 2 飛行機に乗ったことがある人。
- 3 海を見たことがある人。

これらの質問をしたとき、3は20%、2は数人、1は留学を経験しない限り0でした。あくまで私と話をした大学生が対象で、ざっと掴んだ数字ですが、私が想像していたよりはるかに小さい数でした。

でも、彼女らは目を輝かせ外国人である私の話に関心をもちました。そして、彼女らは授業がなくても朝8時すぎに自習室で自習を開始し、夜の9時まで毎日勉強しているのです。土曜日日曜日も特別な用事がない限り勉強します。日本の大学で、もちろん私の学生時代を含めてですが、こんなに勉強する学生がいるのでしょうか。それでも中国の学生はみんなとても毎日楽しそうなのです。お化粧することに一生懸命、流行に遅れない洋服を着ることに一生懸命

な学生などどこにもいないのです。でも、みんなキャンパスを楽しそうに歩いているのです。

私は中国の異文化をガイドブックに書かれていない生の声を届けたいと思います。ただし、初めにお断りしておきますが、これらはあくまでも私個人の感じたことであり、このことがすべての中国の実情でないことは改めてご理解ください。私が感じたこと、思ったことはあくまで私の感覚であることを理解していただきたいのです。私の今後のレポートは、私の感じたカルチャーショックをテーマごとに毎月紹介したいと考えています。これらのテーマを批判的、つまり、日本では常識なのになんで中国ではこんななの？と思う内容が当初中心になるかもしれません。2か月をやっと過ぎた私にどれだけの経験ができたのかとお叱りを受けることは重々承知で言わせてもらえれば、今のところまだ正直に楽しく感じた異文化体験をあまり経験していません。日本人の常識がひっくり返ってしまうようなびっくりした気持ちの沈む体験が中心になっています。でも、今後稿を進めるにつれて、いいお話もたくさんできたらなと僕自身もそう願っています。もし、今後中国へ渡航してみたいとお考えの方がいらっしゃったら、中国を楽しむ前に心構えだけでもできるような内容をあらゆる角度からたくさんご紹介できたらなと思います。そして、最後の卒業レポートでは、これらの経験を事項ごとにまとめることが私の語学習得以外の本留学の最大のテーマです。

最後になりましたが、皆様もご存知のとおり、11月6日早朝、ここ太原市において、中国政府に不満を持つ者の犯行と思慮される爆破事件がありました。死者や多数の負傷者がでる大惨事でした。山西大学からも歩いていける現場です。その日、私はいつものように放課後校内グラウンドでジョギングをした後、夕方近くなりメールをチェックしたところ、多数のメールが未読にありました。すべて爆破事件に心配いただいたメールでした。

特に埼玉県国際課からは何か問題がないか即状況を報告せよとのご指示をいただきましたが、いたってこちらは普通の生活をしている旨心配いただいている担当の方へ急いで返信いたしました。全然無事で返って拍子抜けさせてしまったかもしれません。正直お粗末ながら私はみなさんのメールで事件を知った次第です。その後も今のところおかげさまで大学には何も被害がないのですが、テロのことについては実は後日談もありますので、そのことはまた今度の機会にお伝えしたいと思います。

皆様には本当に影になり日向になり、遠いここ太原まで心を配り日々サポートしていただき感謝しております。改めてお礼を申し上げます。皆さん本当にありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。



最近は中華料理に飽き自炊もします。土曜日の昼食です（作りすぎて翌日も食べました。たまには、と昼間ビールをいただきちゃいました。ちなみにこのビール40円です。物価についてのレポートは追っていたします。）。



突然、ビルを前触れもなく壊します。新しく建設中の道路にがれきをぶち卷けながらはじから壊していきます。横を平気で人が通ります。